

2010年度

科目名	文章表現A		
担当教員	高橋 圭一		
配当	日文1(3111)	コード	13130
開期	前期	講時	月曜日3限
		単位数	2
授業テーマ	わかりやすい文章を書く。		
目的と概要	文章を手書きする機会こそ減ってきたものの、文章作成能力の重要性はむしろ増してきている。日本語日本文学科の卒業生であれば、文章が書けることを期待される向きも多いだろう。この講義では現代の社会で要求される、一読して意味のよくわかる、理解しやすい文章を書く能力を養成する。「名文」を書かせることはできないが、「悪文」を書かないようにする指導は可能である。		
成績評価法	課題の提出状況(40%)、課題に取り組む姿勢(40%)、出席(20%)で総合的に評価する。		
テキスト	毎回プリントを配布する。		
参考書	ロングセラー 第三版悪文／岩淵悦太郎／日本評論社 はそれだけの値打ちがある。		
履修に当たっての注意・助言	文章を書くのは大変なことである。書く前に十分熟考した上で書き始め、書きつつ修正を施し、書き終えた後には何度も推敲する。時間のかかるものと覚悟すること。		
講義計画			
短い講義と実践練習をしたのち、提示されたテーマで文章を書く。二回目以降は前回の課題に対するレポートのいくつかを名前は伏せて取り上げる。ほめるところは大いに褒め、注意すべき点・修正すべき点を指摘する。以下の計画は講義と実践練習のものである。テーマは講義中に発表する。先にまとめて掲げることはしない。			
第1回	今回のみ「名文」を読む。幸田露伴の文章である。ただし、露伴にならえ、と言うわけではない。		
第2回	まずは、書きやすいテーマで文章を書く。		
第3回	原稿用紙の使い方。紙は使わなくなっても知っておいた方がいいことはある。		
第4回	文章に必要な要素(5W1H)を確認する。		
第5回	文章の要旨を短くまとめる。		
第6回	続き。そのコツをつかむ。		
第7回	文章の役割を理解する。問題提起の文、解答する文、など。		
第8回	続き。自分の文章に生かす。		
第9回	文脈を捉える。		
第10回	わかりやすく誤解のない文章を書く。		
第11回	続き。悪文の代表である、長すぎる文を短く切る。		
第12回	意見文を書く。まず「事実」を観察し、報告する。		
第13回	続き。「事実」に対する自分の意見を書く。		
第14回	続き。自分の意見の根拠を示す。		
第15回	続き。自分と異なる意見に対して反論する。		